

MERRY CHRISTMAS



★クリスマス会★

はまぎく

第120号
発行

〒970-8003
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地
TEL (0246) 23-5311
FAX (0246) 23-5312
はまぎく荘新聞編集委員会
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>
E-mail: kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp

●紙面紹介●

- 1面 クリスマス会
- 2面 小島保育園との交流会
ミュージックケア鳴子寄付
- 3面 ハロウィン会
芋煮会
お知らせ
- 4面 研修報告
表彰
編集後記

十二月二十四日、コロナ禍の中、クリスマスは変わらぬにやってきました。讚美歌の流れる中、サンタさんと共に自治会の役員によるキャンドルサービスで、今年のクリスマス会が始まりました。牧師さんと呼んだり、聖書のお話を聞いたりといった事は、今年もまた叶いませんでしたが、職員によるクリスマスの由来についての話があったり、利用者全員での演奏会を行ったりしました。マスク着用の元、「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」「きよしこの夜」に合わせて、思い思いに楽器を鳴らしたり、歌ったりと、クリスマスらしくシャンシャンと鈴の音の響く楽しい演奏会になりました。お待ちかねのサンタさんからのプレゼントでは、サンタさんとトナカイさんからそれぞれプレゼントを受け取り、袋を開けては、皆

利用者インタビュー

at クリスマス会

どんなプレゼントをもらったのか、
利用者にインタビューしてみました。



- 小野栄次さん
「ズボンもらった。あったかいの」
- 吉田茂さん
「ラジオ。黒の」
- 金子俊哉さん
「ウーロン茶と、カフェオレ。
担当に預かってもらってます」
- 蛭田美栄子さん
「おにんぎょさん。ちいちゃいの」
- 雨宮美江さん
「猫のお人形。飾ってるの」
- 根本京子さん
「音の鳴る本。動物の音」



満面の笑みで喜んでいました。午後は、北関東空調さんからいただいたケーキを皆さんでいただきました。口いっぱいにほおぼって「美味しい」と言いながらクリスマスを堪能

能しました。楽しい時間は、あっという間に終わってしまいますが、サンタさん、来年も楽しいクリスマスを待っています。



小島保育園との

交流会



十一月の風も冷たくなってきた頃、例年行っていたはまぎく荘ハウスでのジャガイモ

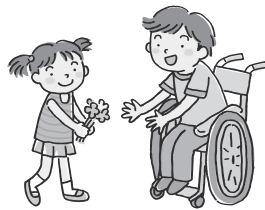
掘り……ではなく、今年は元法人職員の方が大根掘りを提



大根掘り



ちの元気としっかり大きく育った大根に驚きながら楽しく参加しました。全く疲れを感じさせずに次々と大根を抜いていく園児たちと利用者の皆さんの姿に職員も驚きました。大根掘りを終えた後は、景色の良い山間をドライブし、おしゃれなカフェでコーヒをテイクアウトして楽しみました。例年とは違う事も多い中で、誰かとふれあうこと、関わることの楽しさを改めて実感する機会になりました。



ミュージックケア 鳴子寄付



はまぎく荘では毎

週火曜日の午前中にミュージックケアを実施しています。ドアノブを回す、腕を上げるなど、単純だけれども

日常的な動作は高齢化に伴い難しくなってきました。ミュージックケアではそのような日常的な動作を演歌や歌謡曲、時にはクラシックなどの音楽に乗せて行なう事で、機能維持訓練を楽しく行うことを目標にしています。月に一度はミュージックケアの有資格者であるつばさの馬目所長を招き、利用者の皆さんは新鮮さを楽しみ、職員は技術を学ぶ機会としています。ミュージックケアではスカーフや鳴



子、時には新聞紙なども使用音や感触を楽しみ五感を刺激する事も大切に行っています。が、今回「鳴子工房 こだかさ」様より、「外出できない中でも元気に過ごしてほしい！」という思いにより立ち上がった「Withコロナ応援プロジェクト」として鳴子のプレゼントがあります。窮屈に感じるコロナ禍ですが、温かい支援に感謝しつつ、外出が目いっぱい楽しめるように準備して頑張りましょう！



ハロウィン会



今回、「ハロウィン会」では利用者さんに仮装をしてもらいました。「魔法使い」「おばけ」「パンプキン」などに仮装してもらいましたが皆さんとてもキャラクターになりきりお似合いです。現在新型コロナウイルスまん延防止のためハロウィン会で大きなイベントを行なう事は難しかったですが、今回は利用者さんに「自分だけのパンプキンを作ろう」と言う事で、風船にペンで色々な絵を描き、世界に一つしかない自分だけのパンプキンを作ってもらいました。皆さんとても絵が上手で、人の顔を描いたり、動物を描いたり、好きな食べ物の絵を描いたりして素敵に仕上げていました。世界に一つしかないパンプキンを作った後は、みんなで美味しいスイーツを食べました。来年のハロウィンは皆さんの元へお菓子を貰いに行くかもしれませんよ。

トリックオアトリート。

芋煮会



秋の風物詩の一つと言えば、芋煮会。今年は「様々な秋を体験しよう」というテーマで、荘内でのイベントとなりました。

「読書の秋」では、手遊びもして体験型の大型絵本の読み聞かせを。

「音楽の秋」では、飛沫対策を講じてカラオケを。久々に思う存分熱唱していました。

「映画の秋」では、シアター風にしてジュラシックワールドを鑑賞。チケットを握りしめ、暗い部屋のスクリーンに映し出された映画に見

入っていました。

「芸術の秋」では、柿やミカンや葡萄など、やはり秋めいた題材を前に思い思いに絵画を描きました。

皆さん、それぞれ好きな会場を歩き来し五感も刺激されたのではないのでしょうか。

そして昼食には鍋いっぱい豚汁。最後はやはり「食欲

の秋」です。二杯三杯とおかわりし、大満足の表情が見られました。



お知らせ



○鳴子工房こだかさ様より、鳴子を寄付して頂きました。「With コロナ応援プロジェクト」を行っているとのことで、施設内での行事、レクリエーションで活用させて頂きたいと思えます。

○トヨタカローラいわき様より、車椅子一台を寄付して頂きました。不要になったアルミホイールやアルミエンジンなどの資源を集め、交換した車椅子を市内の福祉施設等に寄贈していらっしゃるのお話でした。

○北関東空調様より、今年もケーキを頂きました。毎年たくさんのケーキを頂いており、大変感謝しております。

○株式会社クレハ様より、寄付を頂きました。昭和45年から複数の施設への寄付を続けていらっしゃるようです。継続していく力というものに、改めて感銘を受けました。

研修報告



のぞみの園研修

今回、「障害者の社会福祉的就労と日中活動サービス」の支援の在り方について」という題にて、五つの法人の貴重な実践報告を伺う機会を持ちました。各法人ごとに取り組みや内容は様々でしたが、「生活介護の質をどう測るか」と問われた際の回答は「一人ひとりがどうしたいのか、どう生きていきたいのかを職員の観点から【これで良い】と決めつけてしまわずに、振り返りを常に行う姿勢を持てているか」とあり、改めて日常での利用者の皆さんから発せられるニーズを敏感に汲み取ることの重要性を感じました。

様々な事業所や関係者、地域が本人を中心に据えて支えるという体制は重要ですが、あくまでどうしたいのかを「本人も」チームに入れて支援の形を作っていくことが本当の充実した個別支援・社会参加につながる」と今回の研修から学びました。(六戸)

戸山サンライズ研修

今回、意思決定支援と虐待防止についての繋がりを学ぶべく、ZOOMで研修に参加しました。講義を受ける中で、意思決定とは本人の気持ちに聞き取るだけではなく、実行を促すまでが私たちの支援にとを再確認しました。それと同時に、虐待防止とは支援の中に何か特別な防止策があるわけではなく、虐待の防止について考えながら支援をすることが利用者の権利擁護にもつながり、よりよい支援に繋がっていく、さらに虐待を未然に防ぐことが出来る最善の方法なのだと感じました。その為には、施設全体での人材育成や組織の在り方を常に考え、チームワークを意識した風通しの良い職場環境を作っていく事が大切であり、さらに私たちの支援の日常の中にあるものが虐待防止策であること、を全員が理解することで統一した支援も可能になるのではないかと思います。(三瓶)

障がい者福祉施設等職員基礎研修

今回、十一月三十日に行われた障害者福祉施設等職員基礎研修を受け、障害者福祉の基本となる意思決定についてや、知的障害の定義などを学びました。その中で意思決定支援について印象に残り、自分が利用者さんの意思を尊重して支援が出来ているのか見直すことが出来る良い機会となりました。

ただ利用者さんのやりたい事や希望に沿うように介護・援助をすることが意思決定支援ではなく、自分でできる力を伸ばしていけるように見守ったり、声掛けなどの最低限必要な支援を行ったりする事もとても大切であることがわかりました。

私は働き始めて一年も満たず経験は浅いけれど、今後は利用者さんの意思を汲み取り尊重し、支援として自分に出ることをしていきたいです。(上遠野紗雪)

今回の研修では「ノーマライゼーションとは」「障害とは何か」「意思決定支援とは

何か」を勉強しました。我々が日常で「普通に」行っている事を障害と言う壁のせいで行う事が難しいのが、利用者さんであり、そこに伴い担当の利用者さん・施設を利用している利用者さんの「やりたい事・やってみたい事」への意欲に繋がる意思を引き出す支援を私は出来ているか、試行錯誤して行えているか見直す事ができた時間になったと思います。私たち福祉の仕事は「利用者さん本人の幸せを作ることが土台であり、幸せを感じられる人生を支援する事」であると講師の先生から学ぶことができたので、これが大前提であると頭に入れ今後の支援への展開を考えを繋げて行ないたいと思います。(東城)

相談援助研修初級

相談援助面接研修を受講しました。『より良い援助関係を築くため』をテーマに講義の他、電話の応対や相談面接をグループワークで体験し、支援者としての心構え学び、自分自身の価値観や癖を知ることが出来ました。自分自身のことを知ることで、面接や

支援の中で相手に自分の価値観を押し付けてしまったり感情的になってしまったりすることを防ぐことができます。自分の価値観を意識し、感情をコントロールしながら、相手の価値観や思いを受け入れ利用者さんと関わっていきましょう。ありがとうございました。

最近ではオンラインでの研修が多かったのですが、今回は二日間の研修の中にグループワークが多くありました。グループワークは久しぶりでとても緊張しましたが、その分多くの人とお話しすることができ、学びが多くとても充実した研修となりました。(上遠野智江)

福島県社会福祉大会 会長表彰
川井 敦史

第47回 いわき市総合社会福祉大会大会会長表彰
看護師 田井 則子 (10年)
支援員パート 岩角 繁子 (10年)

(上遠野智江)

編集後記
ワクチンの普及と共に感染者も減少しつつある新型コロナウイルス。秋から利用者さんの買い物外出や帰省の自粛も緩和され、久々の外出に胸が弾みました。これからも、油断はせずに感染対策としてできることを続け、元気に過ごしたいです。
広報誌「はまぎく」110号の高覧ください。(古)